

平成19年度八重山群島病害虫発生予報第8号(11月予報)

11月の気象予報

向こう1か月間の平均気温、降水量、日照時間の予想確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	50	30	30
平年並	30	40	40
低い(少ない)	20	30	30

(平成19年10月26日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地点別の平均値

要素	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	22.8	25.4	20.6	158.7	112.4

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

11月の発生予報および防除上の注意事項

向こう1か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

八重山群島

1 さとうきび

メイチュウ類の防除対策

- 10月中旬の調査の結果、新植圃場での芯枯れ茎率は0.3%(前年0.4%、平年1.2%)と平年よりやや低かった。
- 10月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモンによるトラップ当たりの推定誘殺虫数は50.0頭(前年93.0頭、平年38.5頭)と平年並であった。
- ふ化した幼虫は、夏植えされた苗の葉裏および葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- 有効分けつ期の芯枯れ防止をねらい、食入初期の幼虫を対象にした薬剤防除を行う。
- 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選定し、均一に施用する。

野その防除対策

- 10月中旬の調査の結果、被害茎率は0.3%(前年0.3%、平年0.3%)と平年並であった。
- 台風12号および15号により倒伏被害が発生した圃場や例年食害が多く見られる地域では、薬剤防除を徹底する。
- 地域で一斉に防除することで、より防除効果が高まる。

2 マンゴー

栄養生長期～花芽分化期におけるチャノキイロアザミウマの防除対策

- 10月下旬の調査の結果、一部の施設でチャノキイロアザミウマが多発していた。
- この時期から発生する新梢は、本種の発生源となるため、ビニール袋に入れるなどして、施設外に持ち出し処分する。
- 発生源となる施設内外の雑草除去に努める。
- 本種は雨に弱いことから、灌水を兼ねて動噴で洗い流すと密度低減につながる。

3 かぼちゃ

定植時および生育初期の圃場管理について

- a 植え付け時期は、ウイルス病を媒介するアブラムシ類、アザミウマ類をはじめ、コナジラミ類等の難防除害虫の発生が多くなる。
- b 圃場への飛来侵入防止を兼ねた防風ネットを設置し、また、防虫ネットのトンネル被覆による生育初期の防除を行う。
- c ウイルス病に感染した株の抜き取りは、他の株へ感染させないために作業終了間際に行い、抜き取った株は圃場外に持ち出し処分する。
- d 病害虫の発生源となる圃場内外の雑草を除去する。
- e 定植時に粒剤を施用する。

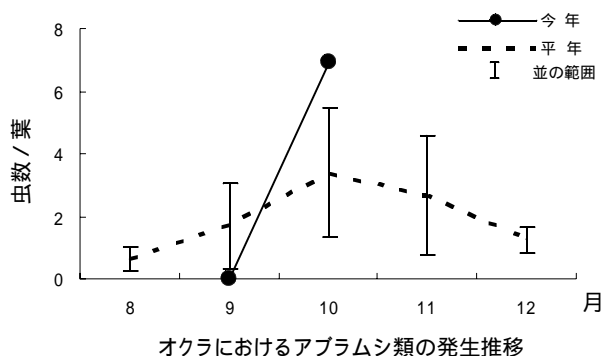
4 オクラ

(1)アブラムシ類

発生程度 : やや多

予報の根拠

- a 10月下旬の調査の結果、アブラムシ類の葉当たり虫数は6.9頭(前年6.9頭、平年3.4頭)と平年よりやや多かった。
- b 気象予報によると向こう1か月の平均気温は平年より高くなる確率が50%の見込みで、本種の発生が助長されやすい。



防除上注意すべき事項

- a 多発生すると葉の萎縮や排泄された甘露にすす病が発生するため、蕾や葉裏をよく観察し、発生初期の防除に重点を置く。
- b 発生源となる圃場周辺の雑草を除去する。